

あすはまだより 4月24日

みなさん、こんにちは！元気ですか？

今日は、漢字^{かんじ}についてお話しします。

漢字^{かんじ}はおとなりのくにの中国^{ちゅうごく}で生まれて、日本につたわってきました。ずっとむかし、日本は文字^{もじ}をもっていませんでした。それが、漢字^{かんじ}が中国^{ちゅうごく}から入ってきたことで、日本でもさまざまなきろくが、文字^{もじ}によってのこされることになりました。

その後^ご、日本では、漢字^{かんじ}をくずしてつくった「ひらがな」と、漢字^{かんじ}の一部^{いちぶ}を取り出してかんたんに発音^{はつおん}をあらわせる「カタカナ」がはつめいされました。

さらに月日がたつと、漢字^{かんじ}とひらがなやカタカナがまじった文しょうを書くようになりました。これを「仮名交じり文^{かんなまじりぶん}」といいます。ふだん、みんなが書いている文章は、「仮名交じり文^{かんなまじりぶん}」です。

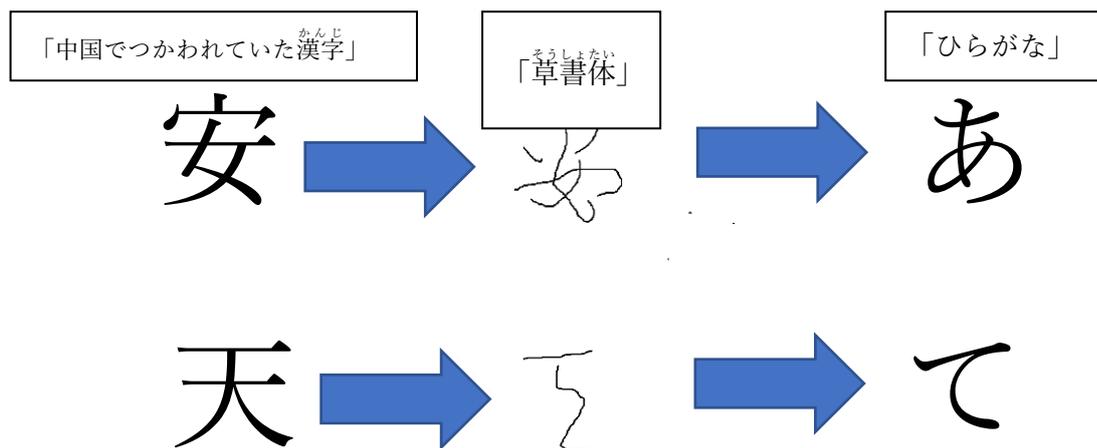
こうなると、もともとの中国^{ちゅうごく}の人がつかっていた漢字^{かんじ}のつかい方^{かた}とは、大きくちがってきました。たとえ話^{ばなし}になりますが、2年ほど前、中国^{ちゅうごく}の人と話す^{はな}きかいがありました。その人は、日本語がかなり上手でした。でも、細^{こま}かいいみがつたわらないことがありました。そのとき、つたえたい内容^{ないよう}を漢字^{かんじ}で書いて見せました。すると、中国^{ちゅうごく}の人はいっぺんにりかいしてくれたのです。

このように、漢字をたくさん知っておくと、たとえば話し言葉が通じないときでも、漢字をつかう国の人に、自分のつたえたいことをつたえられることが多いです。

では、漢字がどのように「ひらがな」になっていったのでしょうか。

それは、漢字が「草書体」という漢字をくずして早書きしやすい文字となり、その字から「ひらがな」ができたのです。たとえば、ひらがなの「あ」は漢字の音の中で「ア」を表す「安」がつかわれていました。また、ひらがなの「て」は漢字の「天」の字がつかわれていました。その字が「草書体」の形になり、ひらがなへとかわっていったのです。

じっさいに、いくつかの字を見てみましょう。



このように、長い時間をかけて、「ひらがな」ができました。

さいごにクイズをします。

もんだい・・・これはげんざい、どの「ひらがな」の文字になっているでしょう？

① 「女」

② 「美」

正かいは、また来週らいしゅう、このホームページでつたえます。

では、元気でべんきょうにうんどうにはげんでくださいね！